
* 愛 逢 傘 *

ヒトリネコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

* 愛逢傘 *

【ZPDF】

Z2006E

【作者名】

ヒトリネコ

【あらすじ】

素直な少女に恋をした素直になれない少年が、ある雨の日こぼんの少し素直になる。どこにでもある、それだけの話。

俺は彼女のことが好きだ。

でも、この想いを告げることができない。

今の関係を崩してしまったことが、怖くてしょうがないから。

だから、彼女の心に一歩、近づくことができないでいた。

* 愛逢傘 *

俺の名前は『宮島修』

あまり目立たない、影が薄いとよく言われるこの学校の生徒。

そんな俺には、好きな人がいた。

「おつはよー！修！」

「よっ」

元気で明るい声で俺の名前を呼んでいるのは『城下由梨』。

いつでもどんな時でも、元気ハツラツな女の子。

彼女は、素直で真っ直ぐな心を持つている。

俺とは違うその部分に惹かれたんだと、俺は思っている。

はつきりしない事は、俺の中にたくさんあった。

でも、これだけは確かだ。

“～俺は『由梨』のことが好きだ～”

この気持ちだけは変えられない。

それなのに、俺は素直になることができない。

彼女とは“真反対”的存在だった。

だから、彼女からはきっと、いつまでもずっと“友達”的ままなのだろう。

俺は怖かった。

授業を終えて、放課後。

俺は、彼女に告白してやつとした。

でも・・・。

「なあ、由梨・・・」

「ん?どうしたの?」

「あ、あのさ・・・その・・・何ていうか・・・」

「だから、どうしたの?」

その後、結局俺は「何でもない」と言い逃れ、思いを告げれなかつた。

どうして俺は素直になれないんだうつ・・・。

俺はこの日、もう無理だと悟つた。

次の日。

少し遅刻しそうになつたが、それよりも精神的に疲れていた。

・・・はあ・・・もういいか・・・。

そんなふて腐れた気持ちと一緒に、学校に登校した。

学校で由梨に会つと、昨日のことを尋ねられた。

もちろん・・・。

「本当に何でもねえよ
と、言つただけだつた。

正直になれるチャンスはもう来ない。

そう思っていた。

授業が終わり、放課後のことだった。

雨が降ってきた。

傘を持つてくるのを忘れて、正直に呆つた。

昇降口で雨がやむのを待つていたときだつた。

由梨がやってきた。

「あ、修！－じつしたの？」

「傘忘れた」

何の前置きもなく唐突にさう言つと、由梨は突然笑い出した。

「何がおかしいんだよ？」

「うつん、何でもないよ」

そつ言つと、由梨は俺に傘を渡した。

「私の傘使つていいよ」

「いいよ。お前が使えよ」

俺がそつ言つて彼女に傘を返すと、むすつとした。

「むう～・・・じゃあ、じつある？」

「だから、お前がそれ使つて帰ればいいじゃん」

まだだ・・・。

俺は由梨の気遣いが嬉しげにはずなの、「心にも無こと」と言つてしまつ。

だから、俺は素直になれないんだ。

そう思つたとき、由梨からとんでもない言葉が飛び出た。

「そうだ！－一緒に帰ろう！－それが一番いいよ！－うん、私つて

天才！－！」

「・・・・は？」

由梨に聞き返すと、顔を赤くして目を逸らした。

どつしたのだろうか・・・・？

「だ、だから・・・・“あいあいがき 相合傘”つてこと、だよ・・・・」

「えー？いや、でも、そんなの、いつ恥ずかしこじゃんかよ

すると、由梨はさりげなく言った。

「いいじゃん。一緒に帰ろう、ね？」

「・・・」

俺はその時、わかってしまったよつな気がする。

・・・もしかしたら、由梨も友達の境界線を超えていたのかも
もしない・・・。
・・・素直な由梨も、俺みたいに素直になれない部分があるのかも
しれない・・・。

・・・俺が素直になれば、由梨のこともわかつてあげられるかもし
れない・・・。

俺は頭を搔きながら、返事を返した。

「・・・わざいな。入れてくれ」

「・・・うん・・・いいよ・・・」

ある歯の口、修は少し素直になれた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2006e/>

* 愛逢傘 *

2010年10月21日02時37分発行